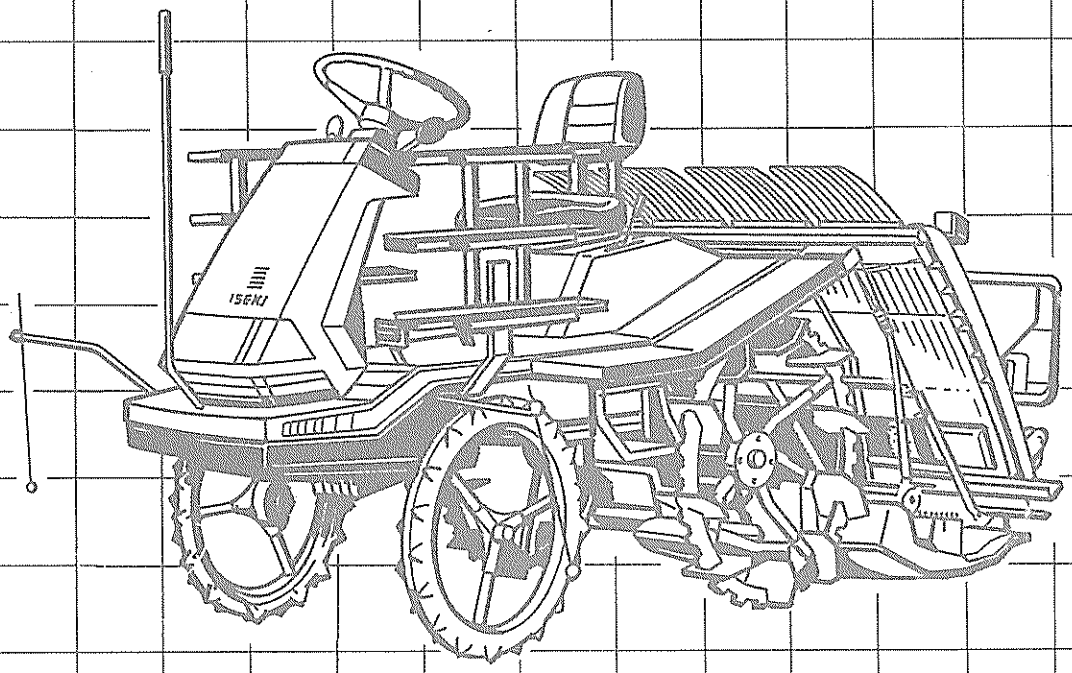
# 水田土壌施肥機

# すなえ

FTA401D(B)(BA)
FTA501D(B)(BA)
FTA601D(B)(BA)

## 取扱説明書



井関農機株式会社

# はじめに

このたびはヰセキ乗用施肥機をお買い上げいただきましてありがとうございました。

乗用施肥機は農業機械総合メーカーのヰセキが、農家の皆様のご要望におこたえして、苗を植え付けながら同時に施肥を行い、田植作業の省力化、増収、公害防止をはかった施肥機です。

乗用施肥機は多くの特長を有し、安定した性能できっとご満足いただけるものと確信しております。

この説明書は製品の正しい取り扱い方法、簡単な点検及び手入れ等について説明しています。よくお読みいただいたうえ、いつまでも優れた性能を発揮できるよう本書を日常の手引としてご活用ください。

施肥田植作業は施肥と田植えを同時に行う複合作業のため、本機、施肥装置のどちらかに異常があっても十分機能が発揮されませんので、本機については本機用の取扱説明書をよくお読みください。

お買い上げいただきました乗用施肥機の不備やサービスに関しまして、お気付きの点、ご意見がございましたら、お買い上げいただきました販売店までお気軽にお申しつけください。

なお、ヰセキでは常に新しい技術を製品に取り入れておりますので、お手元の施肥機と取扱説明書に多少の違いが生じることもありますので、あらかじめ御了承ください。

# 目　　次


主要諸元 …… 4

各部の名称とはたらき …… 7

施肥田植機使用時のポイント …… 10

施肥作業時の注意事項……11　路上走行……12
施肥作業をしないとき……12　運搬のしかた……13

始業点検 …… 14

点検箇所と点検のしかた……14　注油箇所について……15

準備作業 …… 16

田んぼの準備……16　苗の準備……16
肥料の準備……16

各部の調節 …… 17

施肥ブラシの調節……17　肥料の比重のはかりかた……22
施肥量の調節……18　施肥量を少なくしたいとき……23

各部の操作要領 …… 24

肥料のくり出しかた……24　肥料詰り感度調節ノブの使いかた …… 25
クラッチレバーの使いかた……24

施肥田植作業が終ったとき …… 26

一日の作業が終ったとき……26　格　　納……28

知っておきたいこと …… 29

注文品について……29

# 主要諸元

| | | | |
|---|---|---|---|
| セット型式 | | PA400D | PA400D−A |
| オプション | 型式 | FTA401D−B | FTA401D−BA |
| | 装着機種 | PA400D−$\frac{B}{C}$ | PA400D−$\frac{BA}{BC}$ |
| 機体寸法（施肥機装置） | 全長（mm） | 2750 | 2750 |
| | 全幅（mm） | 1455 | 1580 |
| | 全高（mm） | 1430 | |
| 重量 | 重量（本機含む）(kg) | 496（FW型） | |
| | 施肥機のみ（kg） | 66（ウエイト含む） | |
| 使用肥料 | | 粒状肥料より井関施肥機に適した肥料を選ぶ | |
| 施肥方式 | 繰り出し部 | ロールによる強制繰り出し（防水型） | |
| | 肥料搬送 | ブロアによる強制搬送 | |
| | 作溝 | 作溝器による連続溝 | |
| | 覆土 | フロートと覆土板による覆土 | |
| ホッパー容量（kg） | | 20 | |
| 施肥位置（cm） | | 側条4と6・深さ5 | 側条4・深さ5 |
| 繰り出し量調節 | | 全条ワンタッチ調節式（ロール溝幅スライド） | |
| 施肥クラッチ | | 植付クラッチと連動式 | |
| 植えじまい用肥料停止装置 | | 植込杆連動（1条単位クラッチ） | |

○仕様は改良のため変更することがあります。

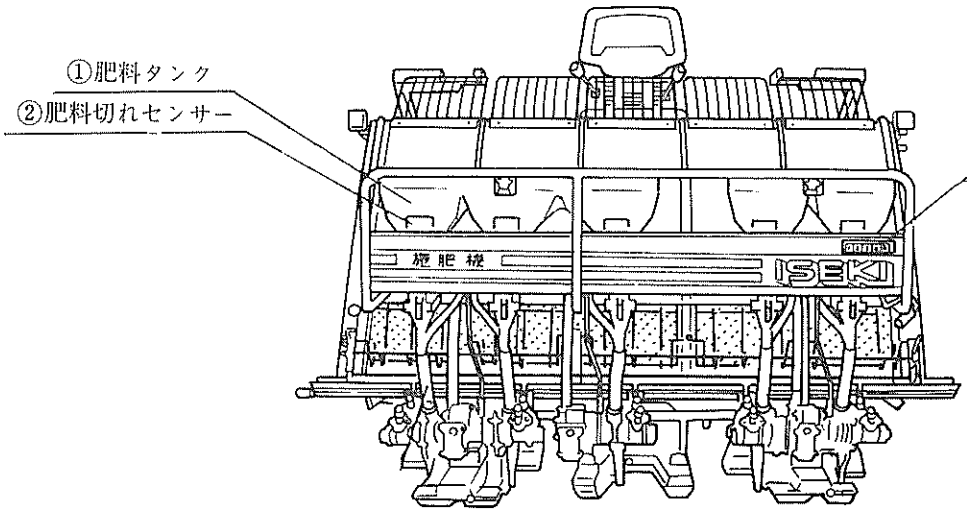
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| セット型式 | | | PA500D | PA500D－A |
| オプション | | 型式 | FTA501D－B | FTA501D－BA |
| | | 装着機種 | PA500D－$\frac{B}{C}$ | PA500D－$\frac{BA}{BC}$ |
| 機体寸法（施肥機装置） | | 全長（mm） | 2940 | 2960 |
| | | 全幅（mm） | 1660 | 1780 |
| | | 全高（mm） | 1450 | |
| 重量 | | 重量（本機含む）(kg) | 558（FW型） | |
| | | 施肥機のみ（kg） | 83（ウエイト含む） | |
| 使用肥料 | | | 粒状肥料より井関施肥機に適した肥料を選ぶ | |
| 施肥方式 | | 繰り出し部 | ロールによる強制繰り出し（防水型） | |
| | | 肥料搬送 | ブロアによる強制搬送 | |
| | | 作溝 | 作溝器による連続溝 | |
| | | 覆土 | フロートと覆土板による覆土 | |
| ホッパー容量（kg） | | | 25 | |
| 施肥位置（cm） | | | 側条4と6・深さ5 | 側条4・深さ5 |
| 繰り出し量調節 | | | 全条ワンタッチ調節式（ロール溝幅スライド） | |
| 施肥クラッチ | | | 植付クラッチと連動式 | |
| 植えじまい用肥料停止装置 | | | 植込杆連動（1条単位クラッチ） | |

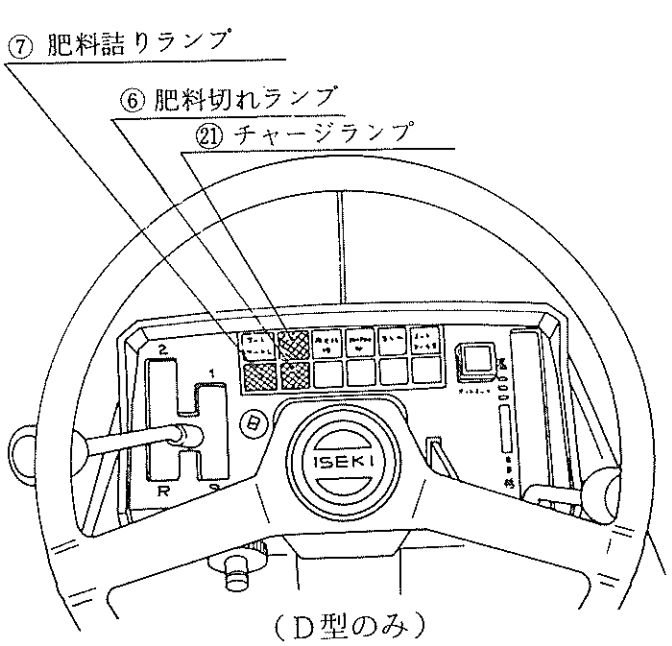
○仕様は改良のため変更することがあります。

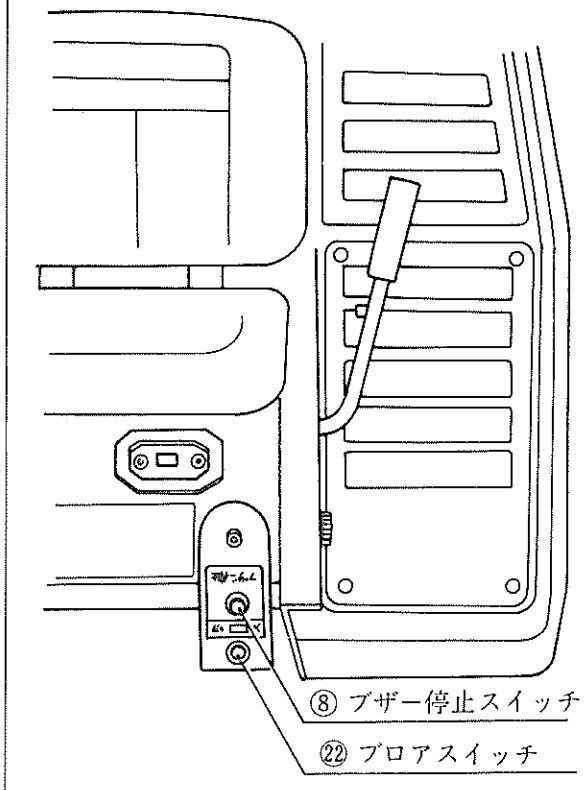
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| セット型式 | | | PA600D | PA600D−A |
| オプション | | 型式 | FTA601D−B | FTA601D−BA |
| | | 装着機種 | PA600D−B/C | PA600D−BA/BC |
| 機体寸法（施肥機装置） | | 全長（mm） | 2960 | 2960 |
| | | 全幅（mm） | 1960 | 2205 |
| | | 全高（mm） | 1455 | |
| 重量 | | 重量（本機含む）(kg) | 637（FW型） | |
| | | 施肥機のみ（kg） | 111（ウエイト含む） | |
| 使用肥料 | | | 粒状肥料より井関施肥機に適した肥料を選ぶ | |
| 施肥方式 | | 繰り出し部 | ロールによる強制繰り出し（防水型） | |
| | | 肥料搬送 | ブロアによる強制搬送 | |
| | | 作溝 | 作溝器による連続溝 | |
| | | 覆土 | フロートと覆土板による覆土 | |
| ホッパー容量（kg） | | | 30 | |
| 施肥位置（cm） | | | 側条4と6・深さ5 | 側条4・深さ5 |
| 繰り出し量調節 | | | 全条ワンタッチ調節式（ロール溝幅スライド） | |
| 施肥クラッチ | | | 植付クラッチと連動式 | |
| 植えじまい用肥料停止装置 | | | 植込杆連動（1条単位クラッチ） | |

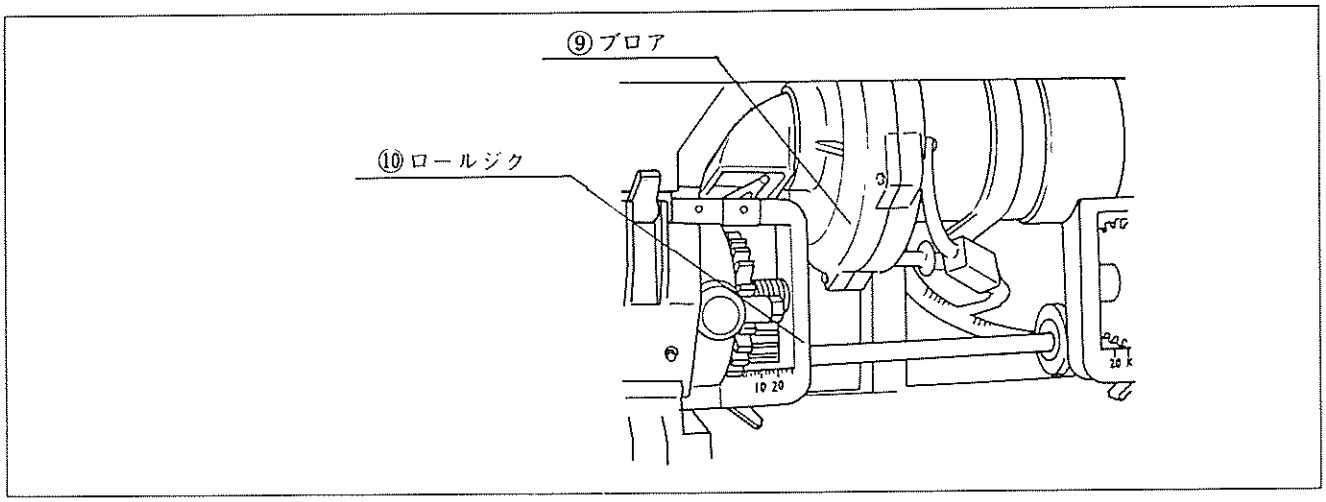
○仕様は改良のため変更することがあります。

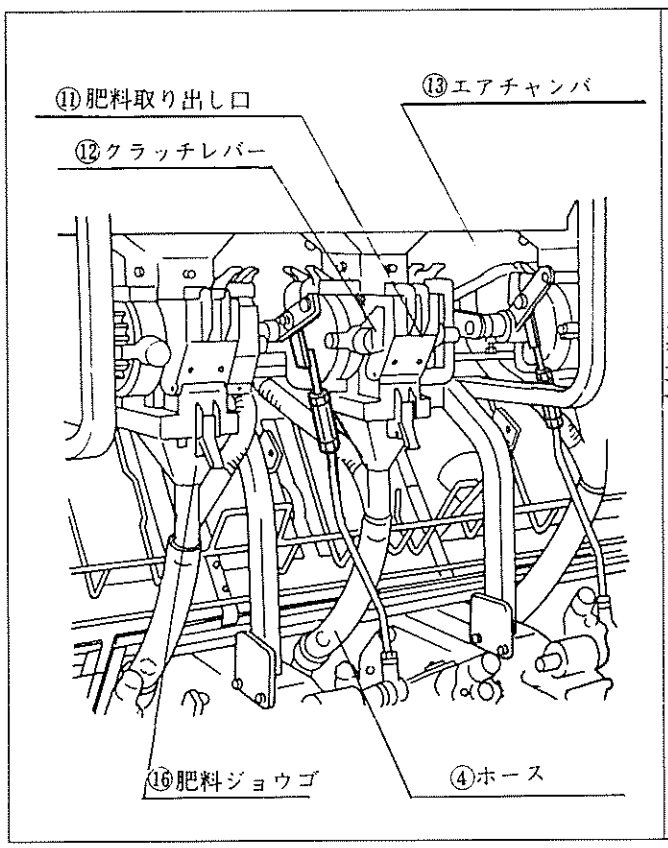
# 各部の名称とはたらき

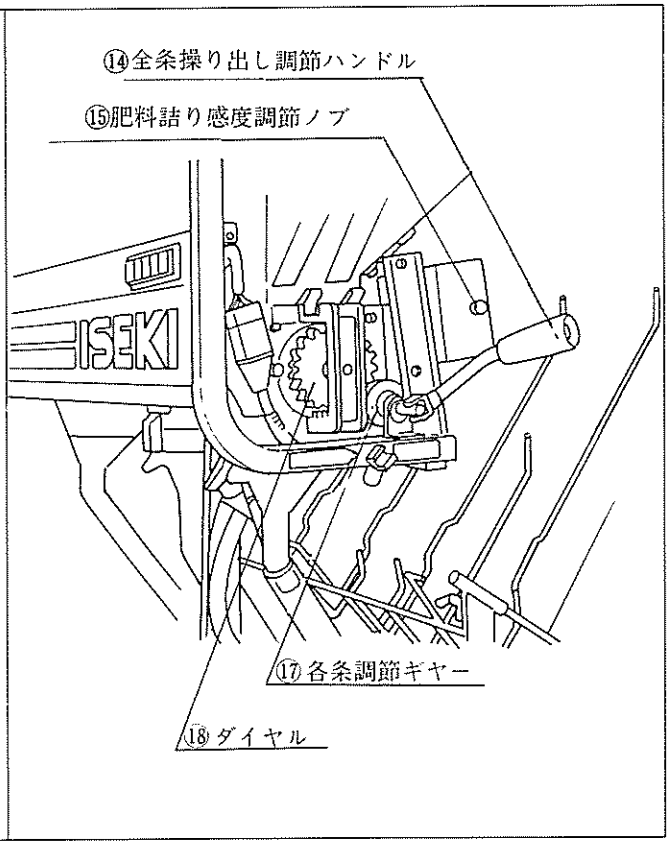

①肥料タンク
②肥料切れセンサー
③肥料詰りモニター
施肥機
ISEKI

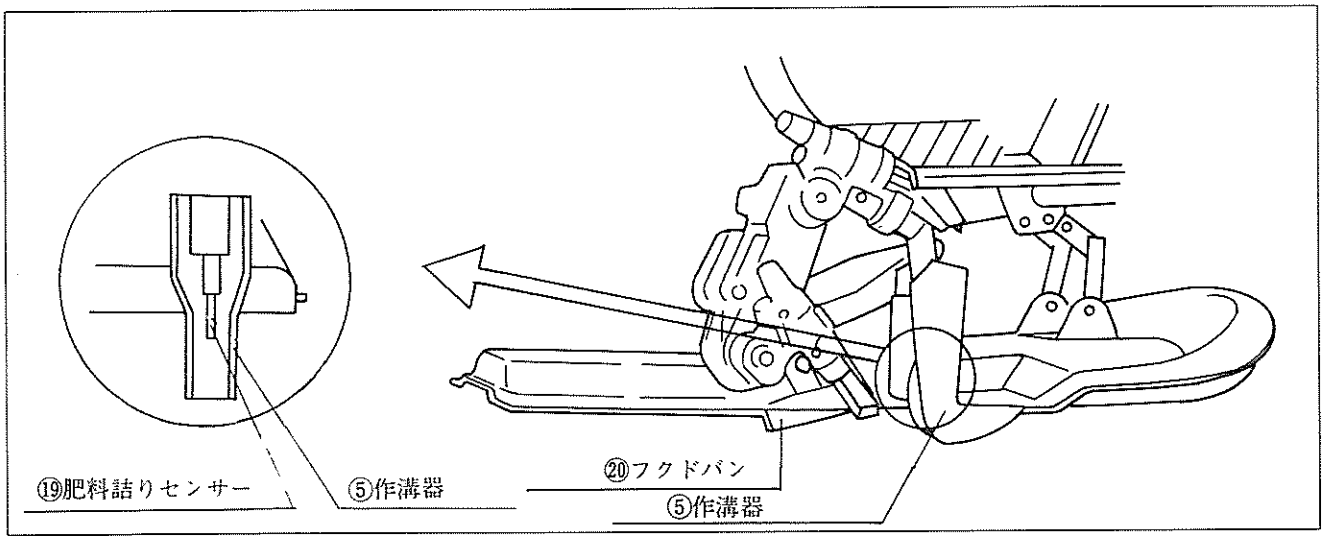

⑦ 肥料詰りランプ
⑥ 肥料切れランプ
㉑ チャージランプ
ISEKI
（D型のみ）


⑧ ブザー停止スイッチ
㉒ ブロアスイッチ


⑨ブロア
⑩ロールジク


⑪肥料取り出し口
⑬エアチャンバ
⑫クラッチレバー
⑯肥料ジョウゴ
④ホース


⑭全条操り出し調節ハンドル
⑮肥料詰り感度調節ノブ
ISEKI
⑰各条調節ギヤー
⑱ダイヤル


⑲肥料詰りセンサー
⑤作溝器
⑳フクドバン
⑤作溝器

| No. | 名　　称 | は　た　ら　き |
|---|---|---|
| ① | 肥料タンク | 肥料を入れるタンクです。 |
| ② | 肥料切れセンサー | 肥料の減少を感知します。 |
| ③ | 肥料詰りモニター | 肥料の詰った条をランプで表示します。 |
| ④ | ホース | くり出された肥料をエアーで作溝器へ搬送します。 |
| ⑤ | 作溝器 | 施肥溝を作ります。 |
| ⑥ | 肥料切れランプ | 肥料タンクの肥料が減ってくると、ブザーとランプで警報します。（D型のみ） |
| ⑦ | 肥料詰りランプ | 肥料が作溝器内に詰るとブザーとランプで警報します。（D型のみ） |
| ⑧ | ブザー停止スイッチ | キースイッチ「入」及びモニタ作動時のブザーを停止するスイッチです。 |
| ⑨ | ブロア | 肥料を搬送するエアーを送り出します。 |
| ⑩ | ロールジク | 施肥ロールの開度を決める目盛が付いています。 |
| ⑪ | 肥料取り出し口 | 肥料タンクに残った肥料の取り出し口です。 |
| ⑫ | クラッチレバー | 端数条植えの時施肥ロールの回転を止めて肥料が出ないようにするためのレバーです。 |
| ⑬ | エアチャンバ | ブロアから送られたエアーを均等に分配する装置です。 |
| ⑭ | 全条操り出し調節ハンドル | 全条の施肥量を調節するためのハンドルです。 |
| ⑮ | 肥料詰り感度調節ノブ | 肥料詰りセンサーの感度を変えるノブです。 |
| ⑯ | 肥料ジョウゴ | くり出された肥料を受けてホースに入れるジョウゴです。 |
| ⑰ | 各条調節ギヤー | 各条の施肥量を調節するためのギヤーです。 |
| ⑱ | ダイヤル | 施肥量を調節するためのダイヤルです。 |
| ⑲ | 肥料詰りセンサー | 肥料詰りを感知します。 |
| ⑳ | フクドバン | 施肥溝を覆土します。 |
| ㉑ | チャージランプ | バッテリーの充電をチェックするランプです。(D型のみ) |
| ㉒ | ブロアスイッチ | ブロアの回転を停止するスイッチです。 |

# 施肥田植機使用時のポイント

(1) 肥　料

○粒径がそろい（２㎜～４㎜のものが70%以上）丸形で吸湿の少ない肥料を使用してください。

(2) 施肥量

○指導機関の意見を参考に多肥とならない様注意してください。
○一般的には慣行の70%～80%程度。
○試し繰り出しを行ってください。（P 22参照）

(3) 施肥田植作業

○苗タンクに苗を補給した後、肥料を入れてください。
○作業速度は一定で作業してください。
○後進時は必ず植付部をリフトしてください。
○深水での施肥作業は肥料が拡散する恐れが有りますので、なるべく浅水で作業してください。
○深田圃場での施肥作業時には、苗を２枚載せないでください。

(4) １日の作業が終った時

○肥料タンク内の残り肥料を取り出してください。（P 26参照）
○肥料の通路をチェックし、肥料の粉等の付着を取り除いてください。
○洗車をしてください。（P 27参照）
○注油指定箇所に、注油をしてください。(P 15参照)

(5) 施肥位置

○側条位置は、４cmと６cmの２段調節式になっています。次の様な時は側施肥位置を６cmに変更し使用してください。
- ∘軟弱徒長苗を使用する時
- ∘砂地系の田んぼに植付する時
- ∘指導機関（農試，指導員等）の指導があった時（特に西南暖地）

⚠ 注意

- 出荷時側条施肥位置は４cmで出荷しています。
- Ａ型仕様の側条施肥位置は４cmのみです。

側条施肥位置を変更する時は最寄りの販売店と相談してください。

# 施肥作業時の注意事項

性能を十分に発揮するため下記の項目に注意して作業を行ってください。

## 苗の補給・肥料の補給

作業始めに苗や肥料を補給する時は、苗タンクを端に寄せて苗を補給した後、肥料の補給を行ってください。

⚠注　意

肥料タンクに肥料を入れて苗タンクを動かすと、肥料がくり出されます。

## 作業速度

施肥ロールの回転速度が変ると、施肥量が多少変る場合がありますので、一定の速度で作業することをおすすめします。

## 旋回時、後進時

旋回時や後進時には、必ず植付部をリフトしてください。

⚠注　意

**植付部を下げた状態で後進すると作溝器内に泥が入り、詰りの原因となります。**
**もし後進した場合には、作溝器を点検、清掃してください。**

## 肥料切れランプの点灯

肥料タンク内の肥料が減ってくるとブザーとランプで警報しますので、早目に肥料を補給してください。

## 肥料詰りランプの点灯

作溝器内に肥料詰りが発生していますので、詰った肥料や泥を取り除いてください。

⚠注　意

- 深水圃場で施肥作業中に停止するとブザーが鳴ることがありますが、作業を続けてブザーが止まれば異常ありません。(P 25参照)
- 作溝器内を点検、清掃する時は、必ずエンジンを停止してください。

## 雨天時の作業

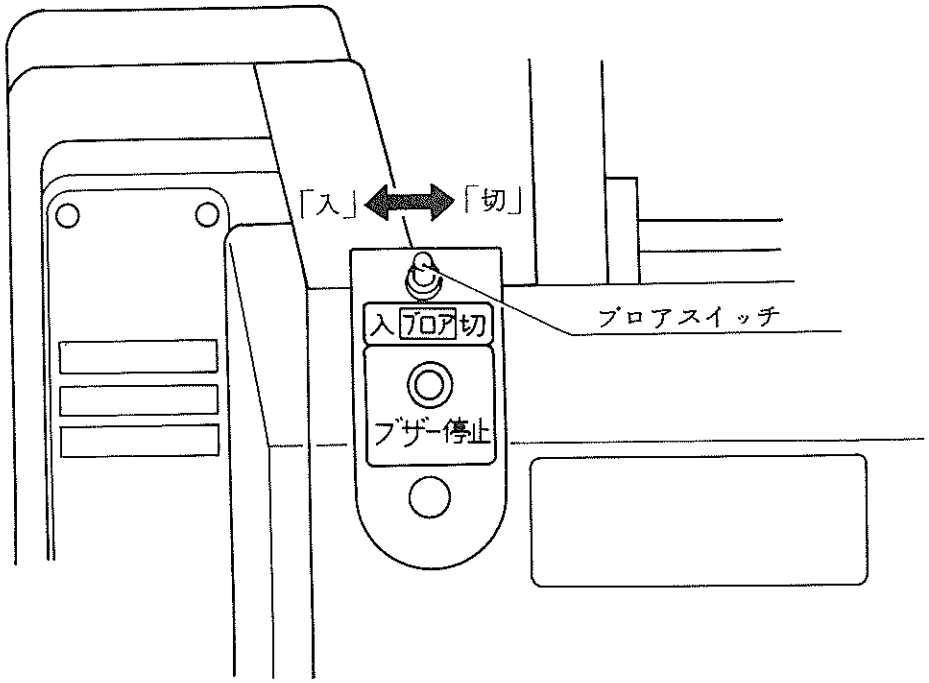
雨天時の作業は高湿度により肥料の吸湿が多く、また肥料の継ぎ足し時にも吸湿しますので肥料が詰りやすくなりますからできるだけ避けるようにしてください。
もし雨天時に作業を行う場合には、肥料の継ぎ足し時に肥料をぬらさないよう、また肥料タンク内に雨水が入らないよう十分注意してください。

## 圃場に機械を放置する場合

田植時期は天候が不順です。圃場で長時間機械を放置する場合には、必ず植付部をリフトして、同梱品のセヒキカバーを肥料タンクにかけてください。

## 施肥作業をしないとき

施肥作業をしないで田植をするときは、ブロアスイッチを「切」の位置にして、ブロアの回転を止めてください。




⚠ 注意

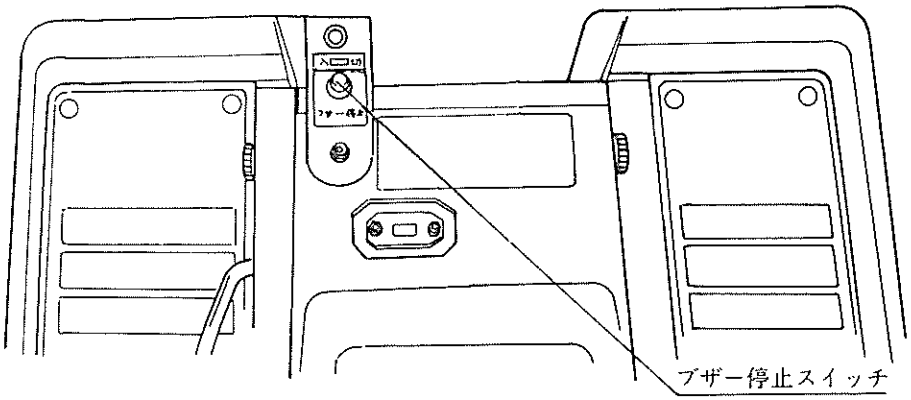
- 施肥作業時には、ブロアスイッチを「入」に戻してください。

## 路上走行

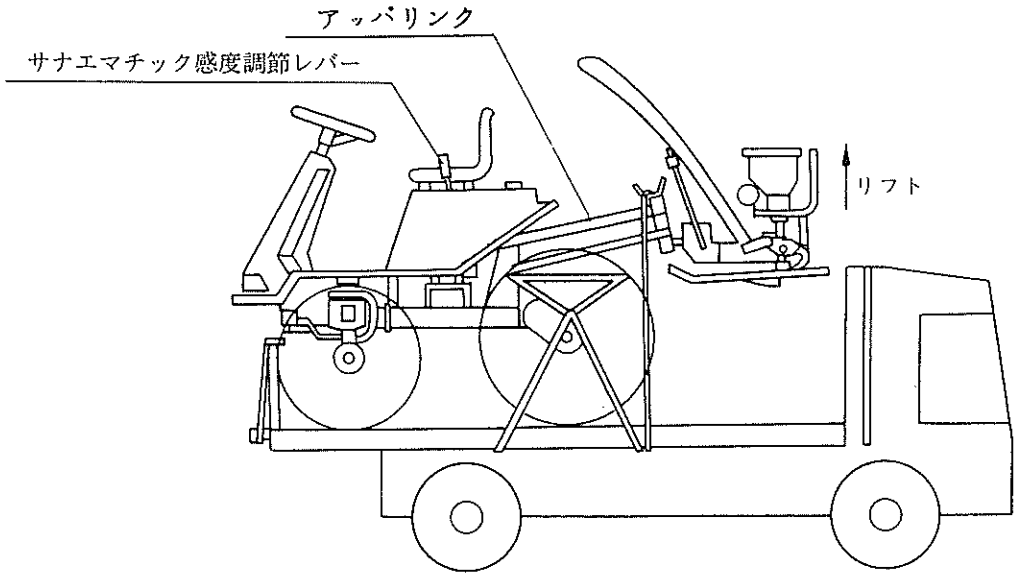
作業前肥料タンクに肥料が無い場合キースイッチを「入」にするとブザーが鳴りますので、座席後のブザー停止スイッチによって停止してください。

⚠ 注意

- 路上走行時には、肥料タンクに肥料を入れないでください。



# 運搬のしかた




(1) 前輪を後部に引きつける。
(2) 後輪をクロスがけに縛る。
(3) 植付部を最大リフトし、サナエマチック感度調節レバーを「植付部下降ロック」位置にしてアッパリンクをロープで軽く押さえる。
(4) 主変速レバーを「R」の位置にして、ブレーキペタルはロックプレートで連結し、ブレーキペタルを強く踏み込み、駐車ブレーキ（掛金）をかけてください。

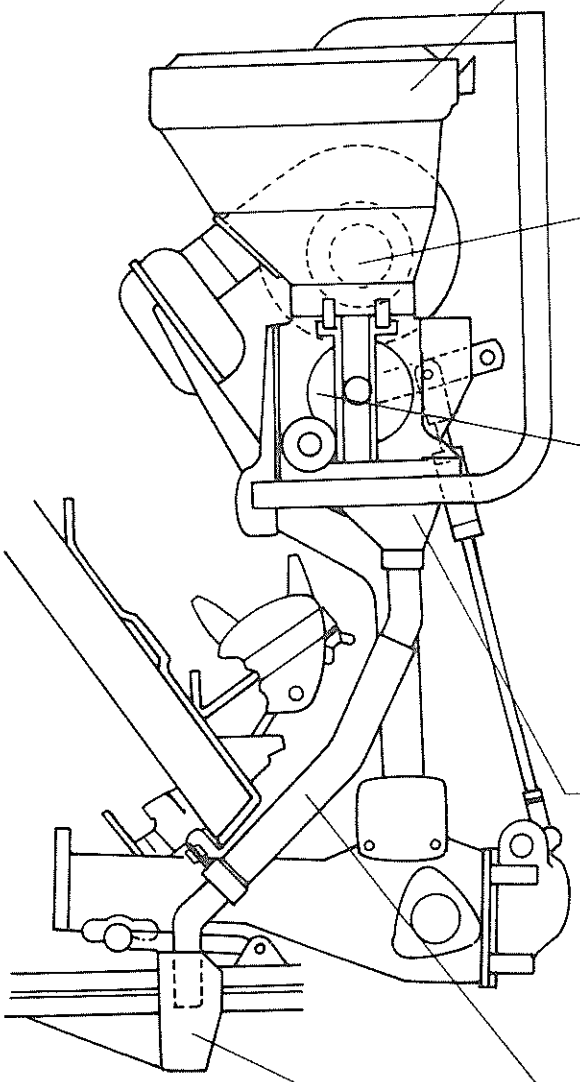
⚠ 注　意

- 凹凸道はさけてゆっくり移動してください。
- 肥料や苗を積んだままの移動や自動車などへの積降ろし、運搬はさけてください。
- 運搬する時は、施肥機の部分には絶体にロープ掛けしないでください。

# 始業点検

性能が十分発揮できるよう始業点検は毎日必ず実施してください。

## 点検箇所と点検のしかた



### 肥料タンク

肥料タンク内部に水分がないか確認し、水分がある場合にはきれいにふきとってください。肥料タンク内部に湿気を帯びた古い肥料や異物があれば取り除いてください。肥料詰りの原因になります。

### ブロアフィルター

フィルターに肥料が付着したり、湿気を帯びている場合は、フィルターを外して、水洗いし良く乾燥させてから取り付けてください。
（P 28参照）

### 施肥ロール

施肥ロールの溝に湿気を帯びた古い肥料が付着していると、希望の施肥量が得られないので、きれに取り除いてください。

⚠ 注意　**ロールの溝を掃除するときは、必ずエンジンを停止してください。**

### 肥料ジョウゴ

肥料ジョウゴ内部に水分がないか確認し、水分がある場合にはきれいにふきとってください。また、古い肥料や肥料の粉等が付着していないか確認し、付着があれば取り除いてください。肥料詰りの原因になります。

### ホース

ホースに肥料や泥その他異物の詰りがないか確認し、詰りがあれば取り除いてください。

### 注　油

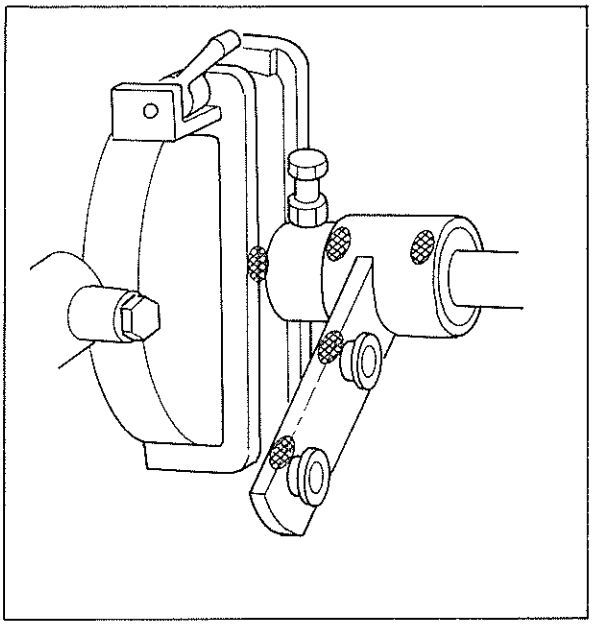
注油指定箇所に注油をしてください。
（P 15参照）

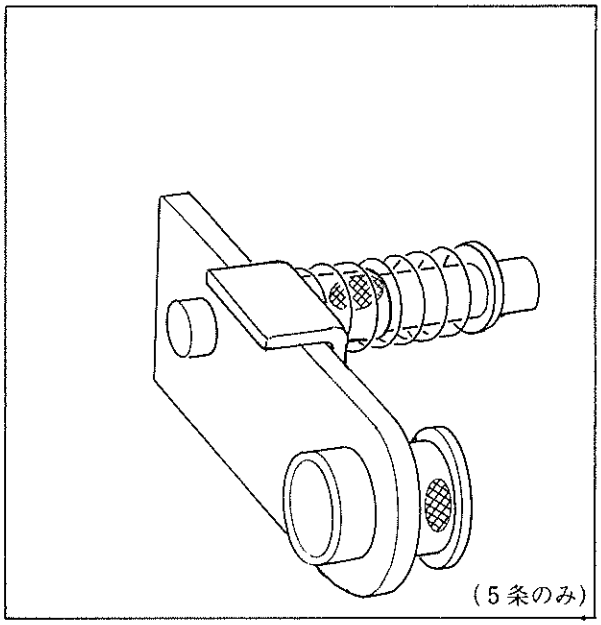
### 作溝器

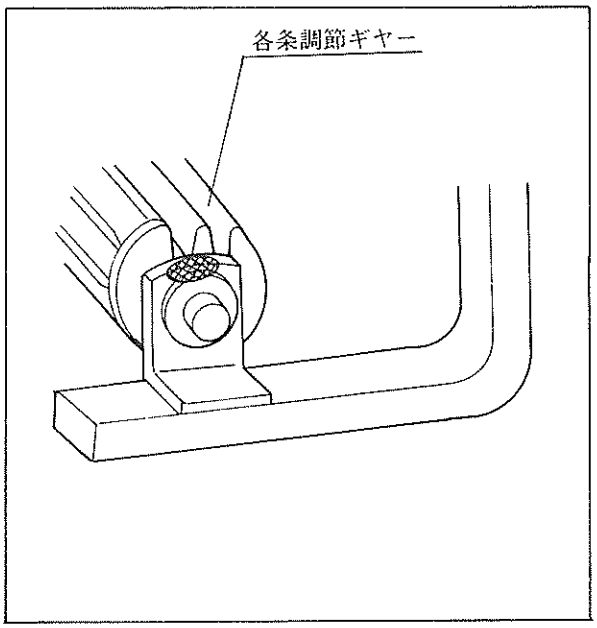
肥料や泥等が付着してないか確認し、付着があれば取り除いてください。肥料詰りや植付姿勢が悪くなる原因となります。

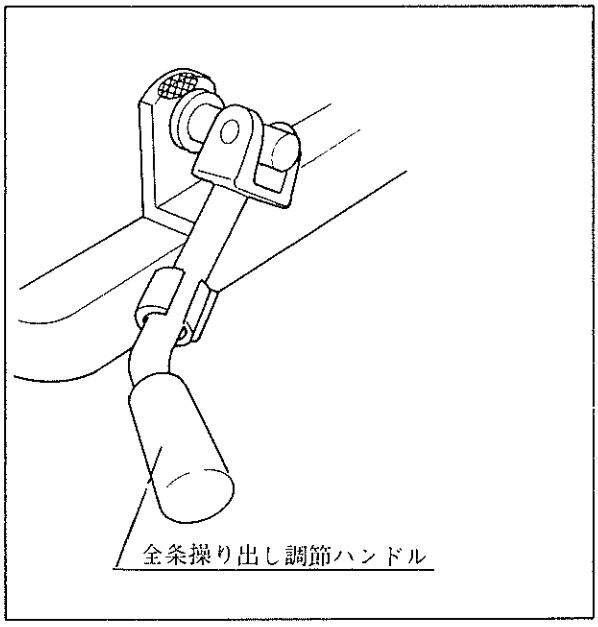
## 注油箇所について

毎日作業前に下記箇所にギヤオイルを必ず注油してください。





# 準備作業

## 田んぼの準備

(1) 代かきはていねいに行ってください。田面に凹凸があると施肥深さが一定にならず、施肥むらになります。

(2) 代の硬さ(表土の硬さ)は、ヨーカン状程度にしてください。(さげふり貫入10～12cm)

⚠注　意
**代が硬すぎると覆土不良となります。**

(3) 田んぼの水は、はしり水程度にしてください。

(4) 刈り株、排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。

⚠注　意
**水が深いと肥料詰りセンサーが誤感知する場合があります。**

## 肥料の準備

(1) 肥料は粒がよくそろっていて、粒径が2㎜～4㎜のものが70%以上あるものを使用してください。粉の多い肥料は使用しないでください。特に別冊の目安表に記載されている肥料をおすすめします。

⚠注　意
**肥料の粒径が2㎜以下のものが多量に混じると施肥量が一定とならず、また、肥料が詰る原因となります。**

(2) 肥料は湿気のないものを使用してください。また、肥料が固まっているときは前もってよく砕いて使用してください。

⚠注　意
**もしこれを怠ると肥料のくり出し不良となり予定量の施肥ができなかったり、詰りの原因となります。**

(3) 肥料は下表を参考に吸湿性の少ない肥料を使用してください。

| 吸湿性少ない | 吸湿性多い |
|---|---|
| ○硫安系化成<br>○硫加燐安系高度化成<br>○塩加燐安系高度化成<br>○IB化成 | ○尿素系高度普通化成<br>○硝安系高度普通化成<br>○CDU化成 |

## 苗の準備

軟弱徒長苗や老化苗は、肥料焼けの原因となりますので使用を避けてください。
「苗の上手な育て方」をよく読み、最寄りの指導機関の方とよくご相談されて良い苗を育ててください。

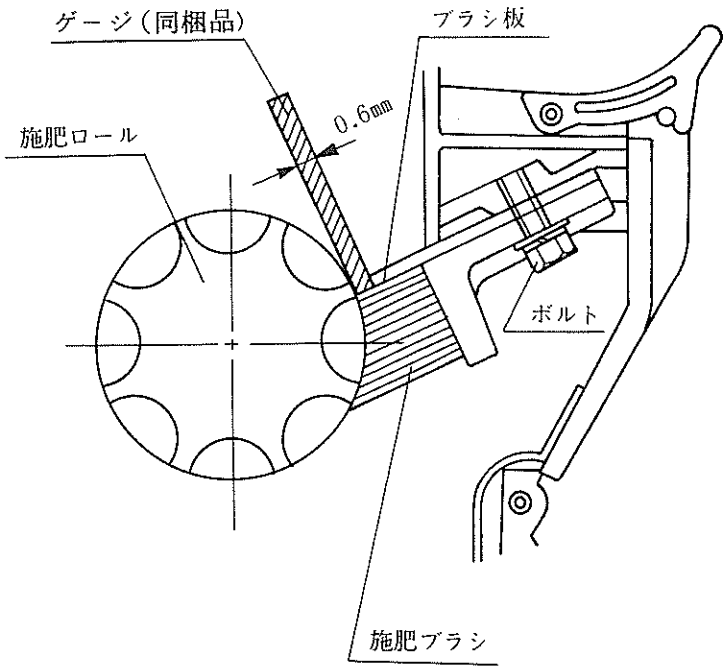
# 各部の調節

## 施肥ブラシの調節

ブラシ板と施肥ロールのスキマがあくと正確に肥料をくり出すことができませんので、そのような場合は調節をしてください。

### 調節のしかた

ボルトを緩めて、施肥ロールとブラシ板のスキマが0.6mmになるようにゲージ（同梱品）を当ててボルトを締めて固定してください。

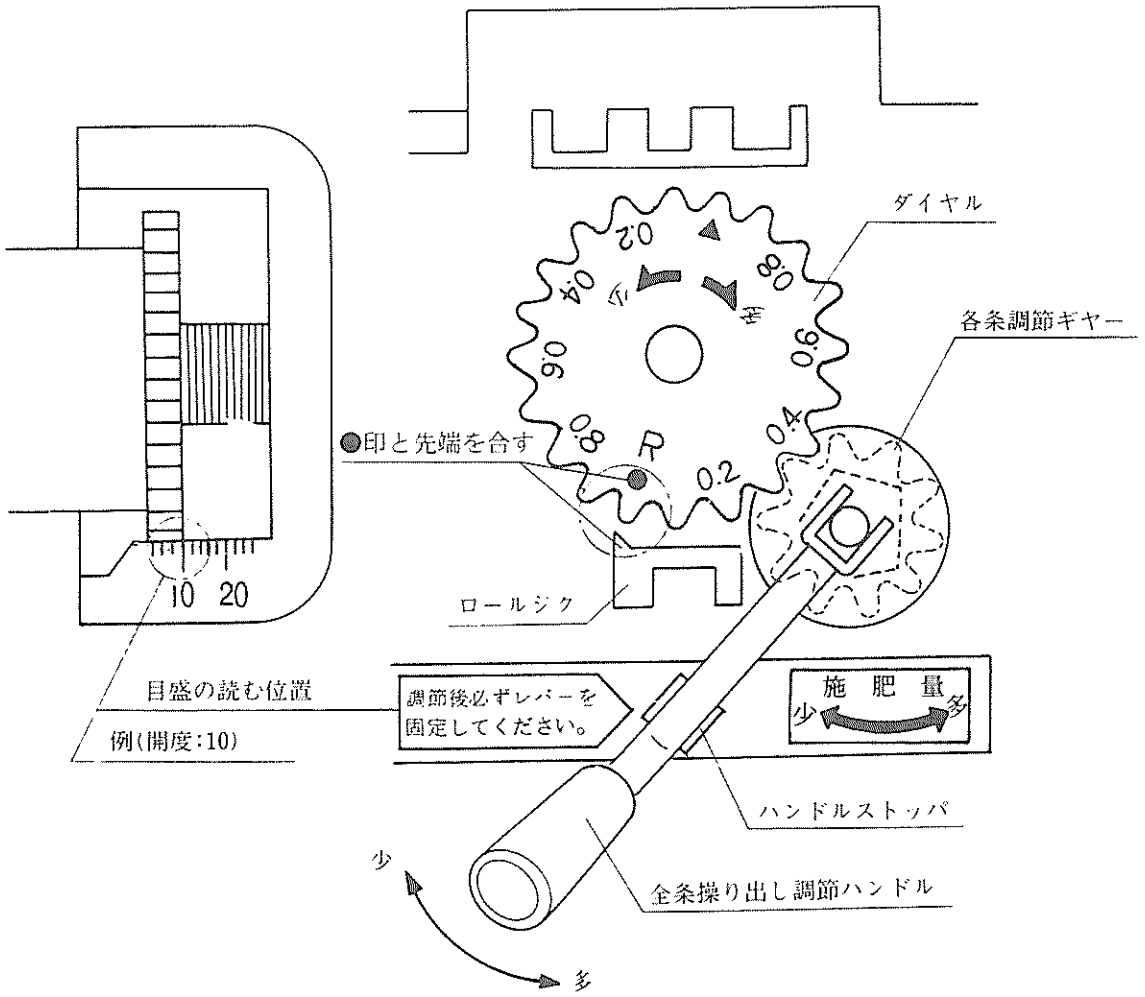



⚠注　意

施肥ブラシが変形している場合には、お湯で施肥ブラシを洗うと元に戻ります。

# 施肥量の調節

## 調節のしかた




(1) 施肥量の目安表により、全条操り出し調節ハンドルを回し目標の開度に合せてください。
全条操り出し調節ハンドル側より見て左へ回せば「多」右へ回せば「少」となります。

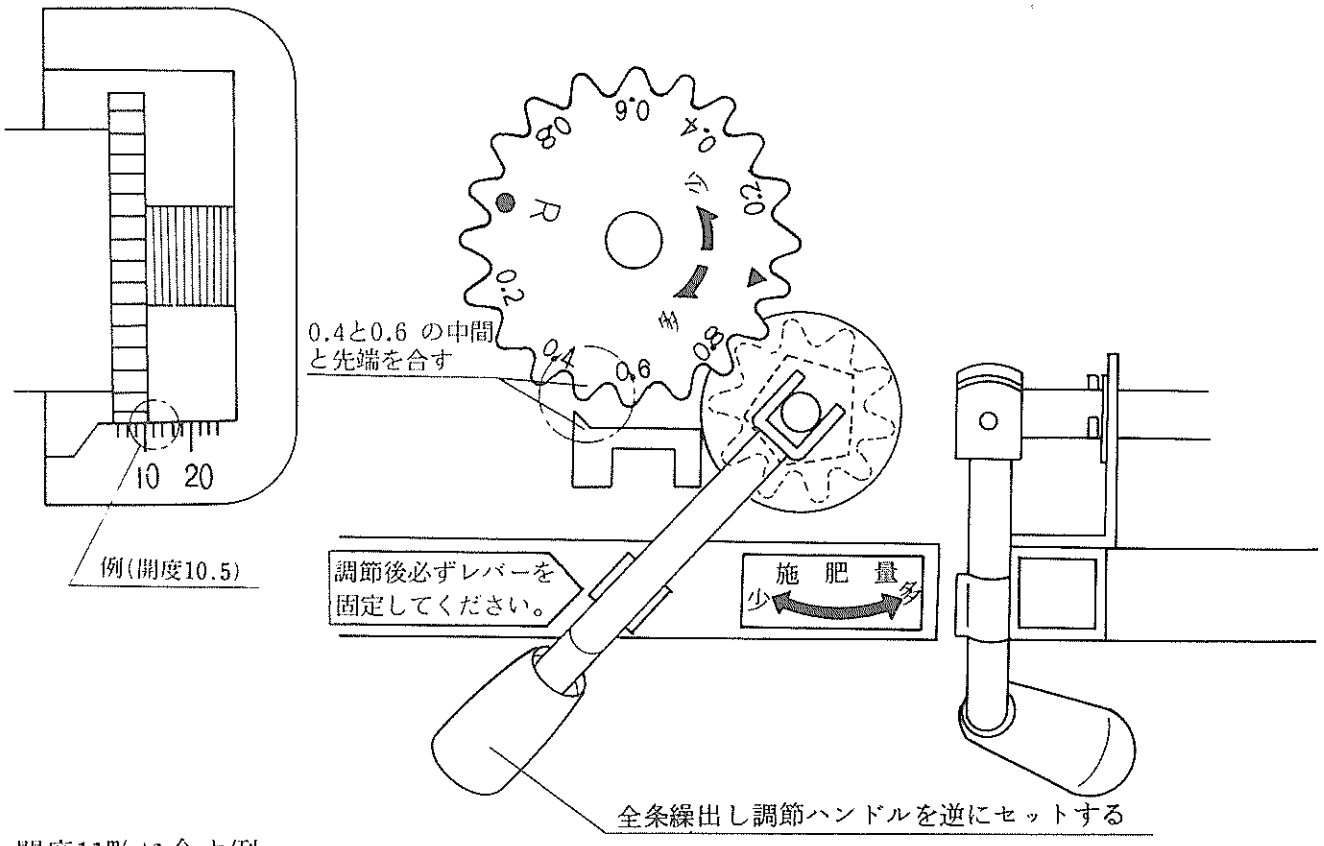
(2) 開度を合せるときは、ダイヤルの●印又は▼印とロールジクの目盛を合せてください。

◉ 上記は開度10mmに合わせた例です。
又この位置より全条操り出し調節ハンドルを半回転「多」側に回しハンドルを固定すると、開度は10.5mm、1回転「多」側に回すと開度は11mmとなります。

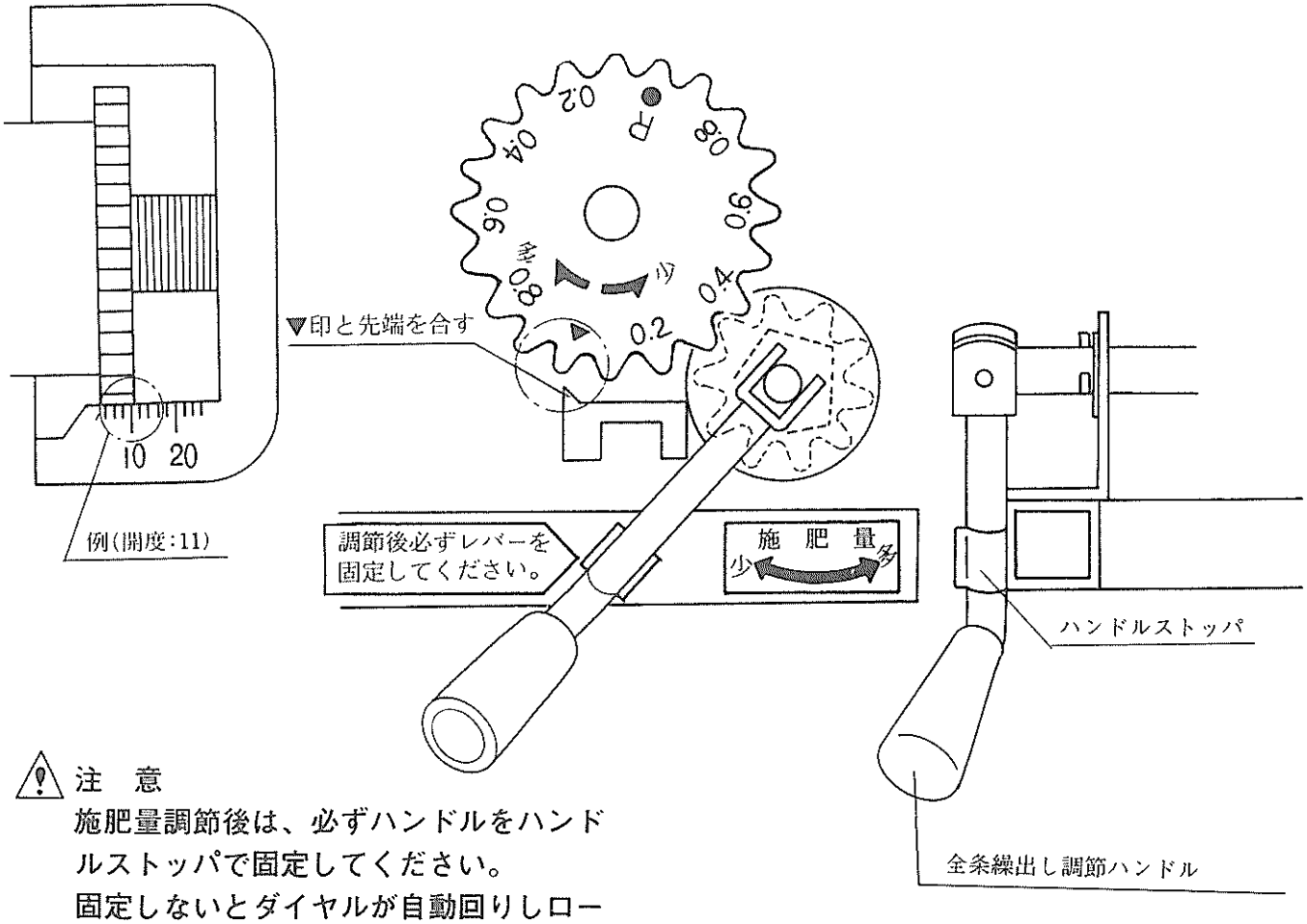
⚠ 注 意

- 全条操り出し調節ハンドル1回転でロール溝巾は1mm変化します。
- 全条操り出し調節ハンドルで0.5mm毎の調節が出来ます。
- 偶数の開度に調節するときは、ダイヤルの●印とロールジクの目盛を合せてください。
- 奇数の開度に調節するときは、ダイヤルの▼印とロールジクの目盛を合せてください。

開度10.5㎜に合す例




開度11㎜に合す例



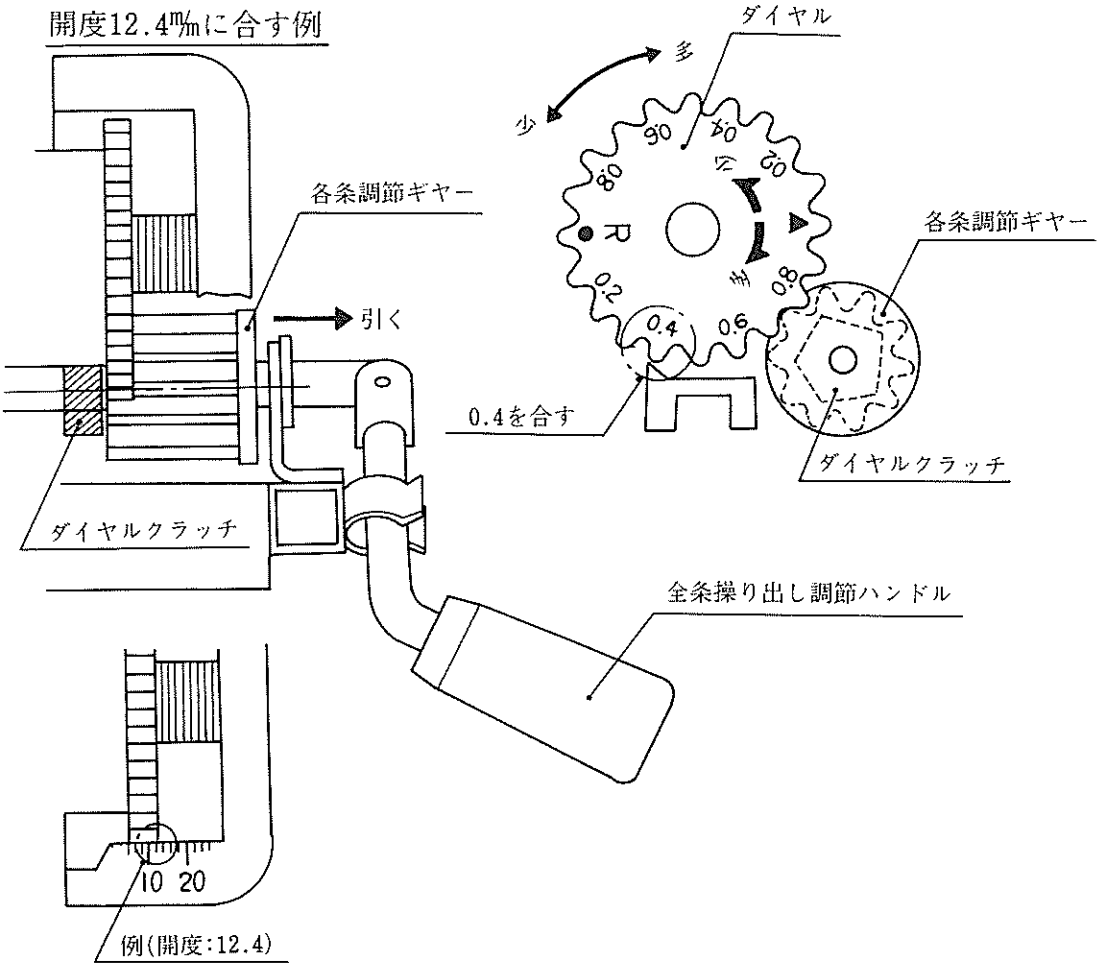

⚠ 注 意

施肥量調節後は、必ずハンドルをハンドルストッパで固定してください。
固定しないとダイヤルが自動回りしローリジクが破損することがあります。

(3) 施肥量のバラツキによって各条事の微調節を行なう時は、各条調節ギヤーをダイヤルクラッチ部よりスライドさせ、クラッチを外しダイヤルを回して調節を行なってください。ダイヤル側面に刻印されている「多」「少」の矢印方向に合わせて回してください。

⚠ 注　意

- 施肥量調節後は、ダイヤルクラッチが各条調節ギヤー内に入った事を確認してください。
  確実に入ってないと破損します。
- 各条調節ギヤーの調節によって0.2㎜毎の調節ができます。




⚠ 注　意

- ロール開度５㎜以下では使用しないでください。くり出し量のバラツキが多くなります。
- 開度調節は肥料タンクに肥料を入れずに行なってください。やむをえず肥料を入れたまま行なうときは、開度を広げる方向のみに調節してください。
  開度を狭くする方向に調節するとロールが破損する恐れがあります。

(4) 全条操り出し調節ハンドルを１回転回すと右表の様に施肥量が増減します。

増減の目安表

| 株数 | 比　重<br>(0.9未満) | 比　重<br>(0.9以上) |
|---|---|---|
| 50 | 2㎏／10ａ | 2.2㎏／10ａ |
| 60 | 2.4㎏／10ａ | 2.7㎏／10ａ |
| 70 | 2.8㎏／10ａ | 3.2㎏／10ａ |
| 80 | 3.4㎏／10ａ | 3.7㎏／10ａ |
| 90 | 3.8㎏／10ａ | 4.2㎏／10ａ |

**施肥量について**

施肥量は、地方、気候、作付品種により異なるため、最寄りの指導機関の方のご意見を参考に多肥にならないよう注意してください。

## 施肥量の目安表の見方

施肥量の目安表は希望する施肥量（10a当り）にするために、全条操り出し調節ハンドルを回して施肥ロールの開度を調節する目安とする表で、肥料タンクに貼付(比重別目安表)してあります。

〔例１〕80株植で肥料の比重0.89を使用し40kg／10ａの施肥がしたい場合には下表より開度12㎜に調節してください。

〔例２〕60株植で肥料の比重0.92を使用し25kg／10ａの施肥がしたい場合には下表より開度９㎜に調節してください。

10ａ当り施肥量の目安表　(kg)

| 株間 | 比重0.9未満の肥料（比重の測り方は取扱説明書を参照して下さい）<br>開度 (mm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 50 | 12 | 14 | 16 | 18 | 20 | 21 | 23 | 25 | 27 | 29 | 31 | 33 | 35 | 37 | 39 | 41 | 43 | 45 | 47 | 49 | 51 | 53 |
| 60 | 13 | 15 | 18 | 20 | 23 | 25 | 27 | 30 | 32 | 35 | 37 | 40 | 42 | 45 | 47 | 50 | 52 | 54 | 57 | 59 | 62 | 64 |
| 70 | 16 | 18 | 21 | 24 | 27 | 30 | 33 | 35 | 38 | 41 | 44 | 47 | 50 | 53 | 55 | 58 | 61 | 64 | 67 | 70 | 72 | 75 |
| 80 | 17 | 20 | 23 | 27 | 30 | 34 | 37 | 40 | 44 | 47 | 50 | 54 | 57 | 61 | 64 | 67 | 71 | 74 | 77 | 81 | 84 | 87 |
| 90 | 19 | 23 | 26 | 30 | 34 | 38 | 42 | 46 | 49 | 53 | 57 | 61 | 65 | 69 | 72 | 76 | 80 | 84 | 88 | 92 | 96 | 99 |

〔例１〕

| 株間 | 比重0.9以上の肥料（比重の測り方は取扱説明書を参照して下さい）<br>開度 (mm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 50 | 12 | 15 | 17 | 19 | 21 | 24 | 26 | 28 | 30 | 32 | 35 | 37 | 39 | 41 | 44 | 46 | 48 | 50 | 53 | 55 | 57 | 59 |
| 60 | 14 | 17 | 20 | 22 | 25 | 28 | 31 | 33 | 36 | 39 | 42 | 44 | 47 | 50 | 53 | 55 | 58 | 61 | 64 | 66 | 69 | 72 |
| 70 | 17 | 20 | 23 | 27 | 30 | 33 | 36 | 39 | 43 | 46 | 49 | 52 | 55 | 59 | 62 | 65 | 68 | 71 | 74 | 78 | 81 | 84 |
| 80 | 18 | 22 | 26 | 29 | 33 | 37 | 41 | 44 | 48 | 52 | 55 | 59 | 63 | 67 | 70 | 74 | 78 | 82 | 85 | 89 | 93 | 96 |
| 90 | 21 | 25 | 30 | 34 | 38 | 42 | 47 | 51 | 55 | 59 | 63 | 68 | 72 | 76 | 80 | 85 | 89 | 93 | 97 | 101 | 106 | 110 |

〔例２〕

## 肥料の比重

肥料の比重は、Ｐ22の「肥料の比重のはかりかた」を参考にしてください。

**⚠ 注　意**

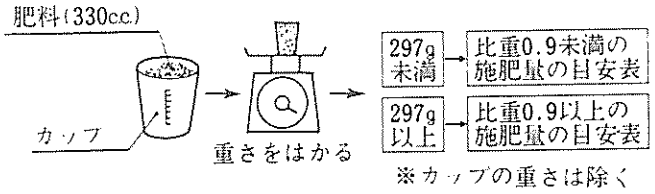
**施肥量は肥料の比重、粒径の違い、粒径の不揃い、ロールの回転数によって変わるため施肥量はあくまで目安としてください。**

**さらに正確に施肥したい場合には、次頁の「試しくり出しのしかた」に従って施肥量を決めてください。**

## 肥料の比重のはかりかた

施肥する肥料を330cc.カップに入れ、台ばかり等で重さをはかってください。

⚠ 注　意
井関純正部品のタネモミテイリョウカップ(2723-601-001-0A)を使用すると便利です。（P 29参照）

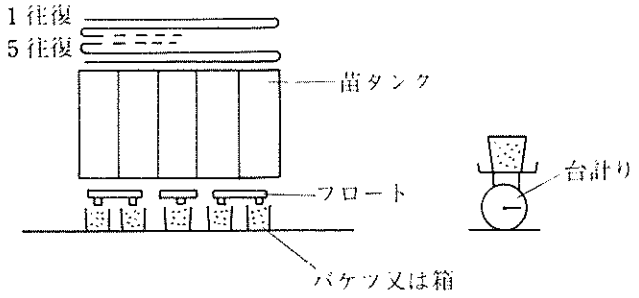



### 試しくり出しのしかた

施肥量表はあくまで目安です。更に正確に施肥したい場合には下記要領で試しくり出しを行ってください。

(1) 準備するもの
①肥料を受けるバケツ又は箱を条数個
②台計り

(2) 方　法
苗タンク5往復のくり出し量の総重量Aを測定する。




バケツ内の肥料重量を台計りにてはかり、各条のバラツキは、施肥ブラシ板のスキマをチェック後ダイヤルにて調節を行ってください。
又、各条の肥料重量の和(肥料総重量＝A)は下記の実質くり出し量表にて計算して設定した施肥量にダイヤルを回し調節してください。

⚠ 注　意
- 試しくり出をする時には、植込杆が回りますので取り扱いには注意してください。
- 試しくり出しをする時のエンジン回転は、ほ場で使用する程度の回転に調節してください。

実質くり出し量表（kg/10a）

| 株間＼横送り・条数 | 24回取り | | | 20回取り | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 4 | 5 | 6 |
| 50 | 15.6×A | 12.5×A | 10.4×A | 18.8×A | 15×A | 12.5×A |
| 60 | 18.8×A | 15×A | 12.5×A | 22.5×A | 18×A | 15×A |
| 70 | 21.9×A | 17.5×A | 14.6×A | 26.3×A | 21×A | 17.5×A |
| 80 | 25×A | 20×A | 16.7×A | 30×A | 24×A | 20×A |
| 90 | 28.1×A | 22.5×A | 18.8×A | 33.8×A | 27×A | 22.5×A |

| 株間＼横送り・条数 | 18回取り | | | 16回取り | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 4 | 5 | 6 |
| 50 | 20.8×A | 16.7×A | 13.9×A | 23.4×A | 18.8×A | 15.6×A |
| 60 | 25×A | 20×A | 16.7×A | 28.1×A | 22.5×A | 18.8×A |
| 70 | 29.2×A | 23.3×A | 19.4×A | 32.8×A | 26.3×A | 21.9×A |
| 80 | 33.3×A | 26.7×A | 22.2×A | 37.5×A | 30×A | 25×A |
| 90 | 37.5×A | 30×A | 25×A | 42.2×A | 33.8×A | 28.1×A |

○実質くり出し量が設定施肥料より多い時……ダイヤルを「少」の方向に回す。
○実質くり出し量が設定施肥料より少ない時……ダイヤルを「多」の方向に回す。

# 施肥量を少なくしたいとき

肥料タンクに貼付してある(比重別目安表)より少量の施肥を希望する時は、クリダシロッドの取付け位置を変更すると、目安表の½の施肥量に変更することが出来ます。

## 調節のしかた

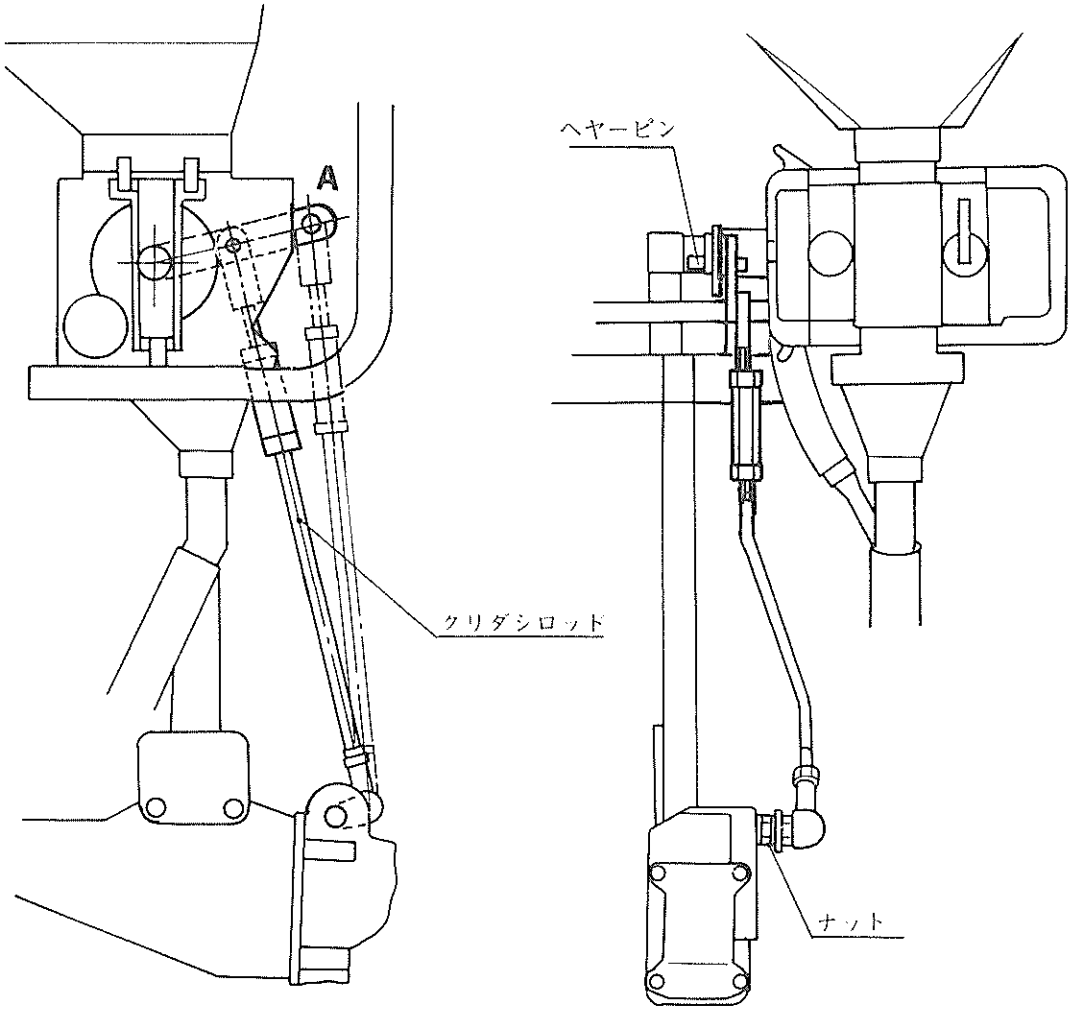
クリダシロッド先端部のヘヤーピンを外しロッドをA位置に取り付けてください。

⚠ 注　意

施肥量は肥料の比重、粒径の違い、粒径の不揃い、ロールの回転数によって変わるため、施肥量表はあくまで目安としてください。

さらに正確に施肥したい場合には、「試しくり出しのしかた」に従って施肥量を決めてください。

（P22参照）



# 各部の操作要領

## 肥料のくり出しかた

油圧・植付レバーを「入」位置にすると肥料がくり出されます。

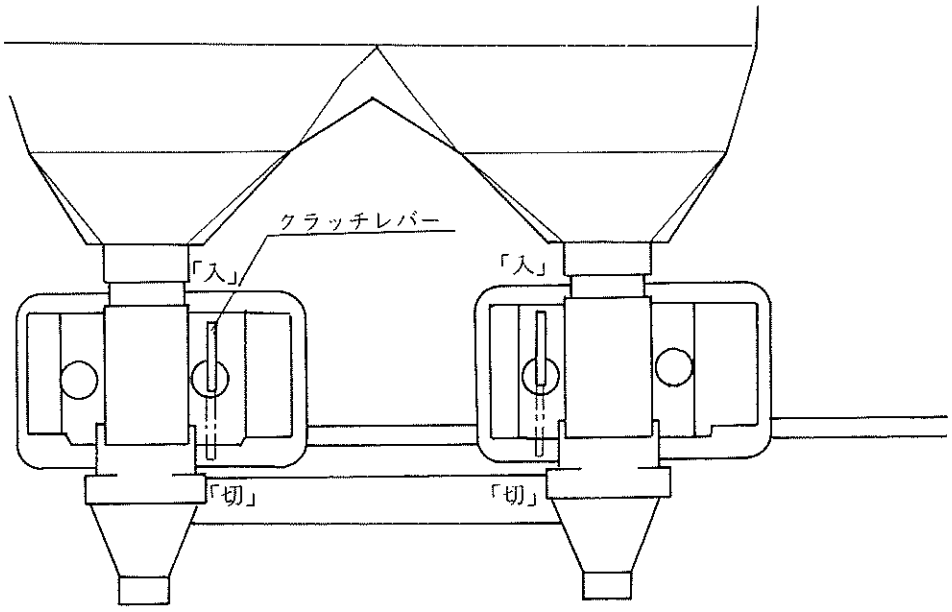
（油圧・植付レバーと肥料のくり出しは連動になっています。）

## クラッチレバーの使いかた

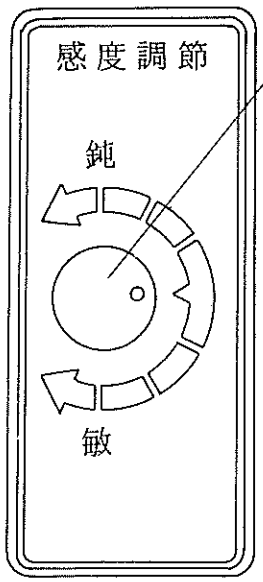
- ２条単位で肥料のくり出しを止める場合は植込杆停止レバーと連動になっています。
- 変形した田んぼや枕地等で端数植えをするとき１条単位で植付を停止する条のクラッチレバーを「切」の位置に操作し肥料のくり出しを止めてください。

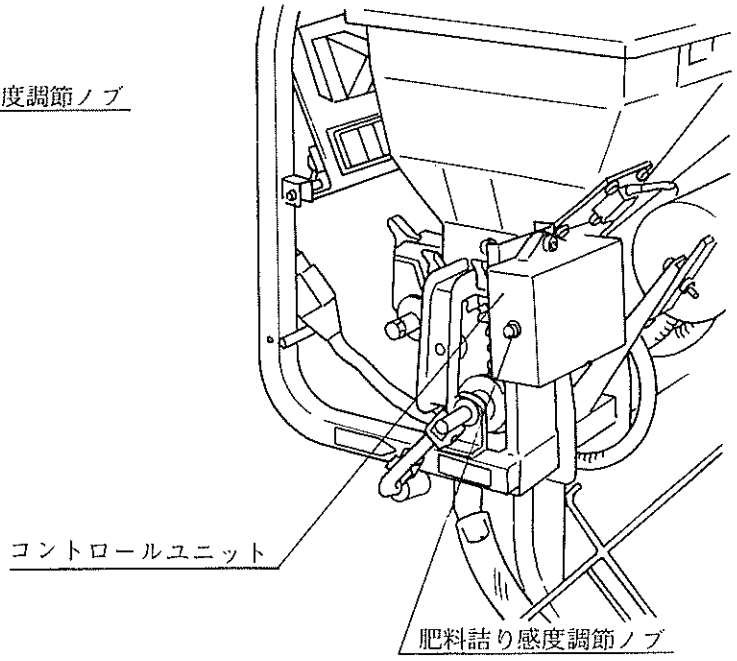
**注　意**

**端数植えが終ったら必ずクラッチレバーを施肥の位置「入」に戻してください。レバーを「入」の位置に戻さないと肥料がくり出されません。**



# 肥料詰り感度調節ノブの使いかた




## 調節のしかた

誤感知がたびたび発生するときには、コントロールユニットの肥料詰り感度調節ノブを「鈍」の方向へ回して調節してください。

⚠ 注意

深水圃場で施肥作業中、停止すると局部的に肥料濃度が上り誤感知することがあります。その場合、作業を続けてブザーが止まれば異常ありません。

# 施肥田植作業が終ったとき

## 一日の作業が終ったとき

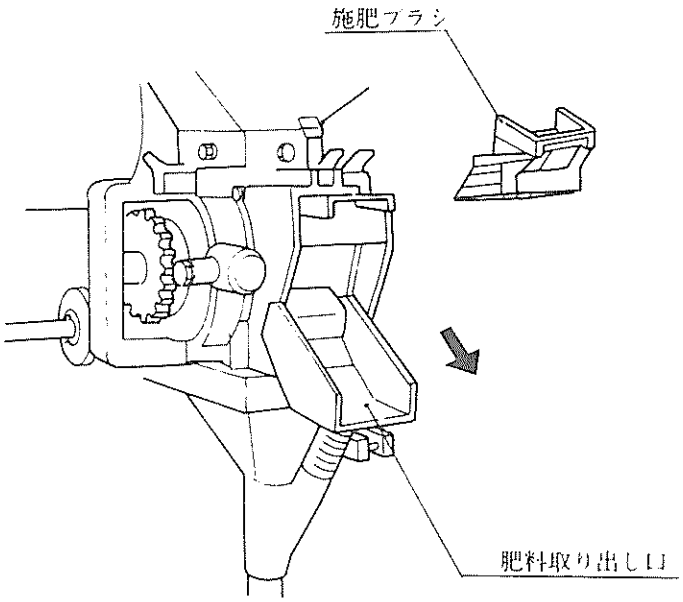
一日の作業が終ったら残った肥料を肥料タンクから抜き取り、施肥ロール溝部やホース内に残った肥料も機械をカラ運転させてきれいに取り除き、各部を水洗いしてください。

⚠ 注　意

肥料はすぐ湿気を吸って固まりますので放置しておくと、翌日の作業で詰りの原因となりますから必ずきれいに取り除いてください。

### 残り肥料の取り出しかた

残り肥料を取出す場合には右図のように肥料取り出し口のフタを矢印の方向へ開き、ブラシを抜き取って肥料を取り出してください。



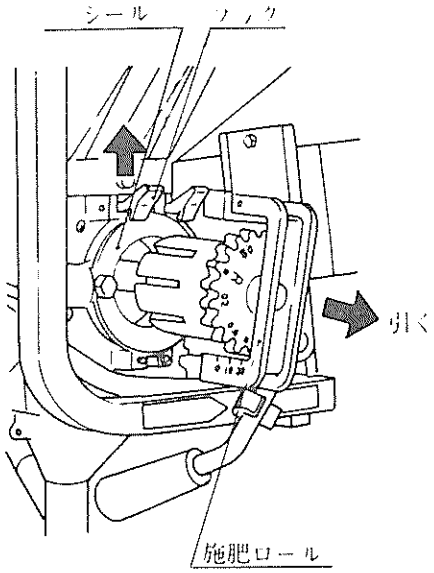

⚠ 注　意

抜き取ったブラシは、必ず元の位置に戻してください。

### 施肥ロールの点検・清掃のしかた

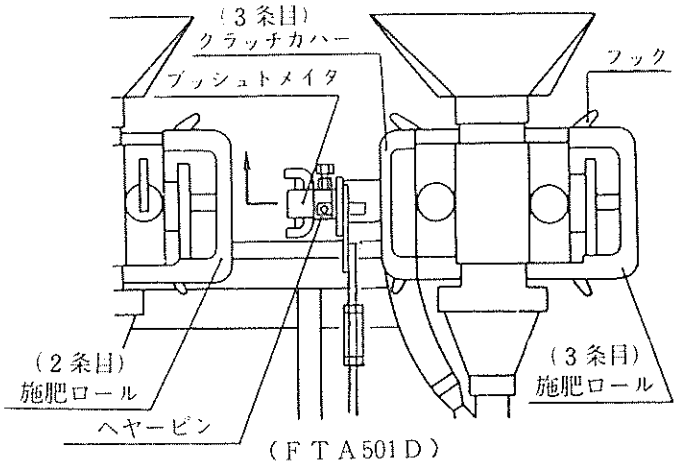
フックを矢印の方向に外し、施肥ロールを引き抜くとワンタッチで施肥ロールが取り外せます。

施肥ロールの点検、清掃に使用してください。




⚠ 注　意

- ブロアのセットされている部分の施肥ロールを取り外す場合は、P27を参考にしてブロアを外してから施肥ロールを取り外してください。
- 組立時シール部にグリスがない時はグリスを塗布して組み付けてください。
- 使用後は確実に施肥ロールをフックで止めてください。
- ＦＴＡ501Ｄの左から２条目の施肥ロールを外す場合には、ブッシュトメイタを左へスライドさせ軸受部より外し、ヘヤーピン、３条目のクラッチカバー、施肥ロールを外した後、２条目の施肥ロールを外してください。



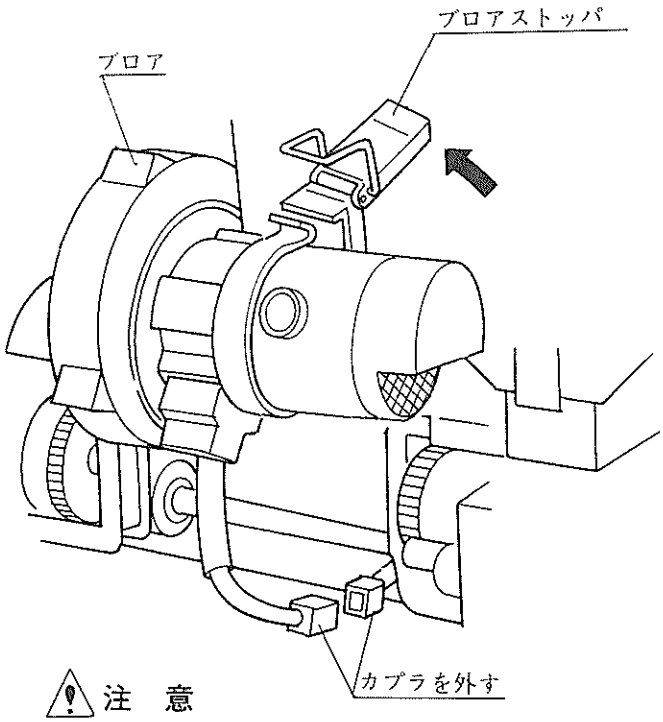
## 水洗いのしかた

① ブロア、施肥ブラシを外し、サナエマチック感度調節レバーを「植付部下降ロック」位置に主変速レバーを「ＰＴＯ」油圧・植付レバーを「入」にして施肥ロールを回してください。

（ブロアを取り外す場合には右図のようにブロアストッパを矢印の方向へ開きカプラを外して取り出してください。）

② エンジン回転は低速にして肥料タンクより水を注入し、肥料の通路を水洗いしてください。

③ 水洗い後、ブロアを取り付け10分間程度ブロアを回し送風することにより、ホース内部の水分は乾燥します。




⚠ 注　意

・ブロア、施肥ブラシは必ず外してから水洗いしてください。

・外したブラシは、必ず元の位置に戻してください。

## ブロアを清掃用としての使いかた

ブロアを取り外し、注文品で決めてあるカールコードとブロアノズルを使用すれば、清掃用として使用できます。

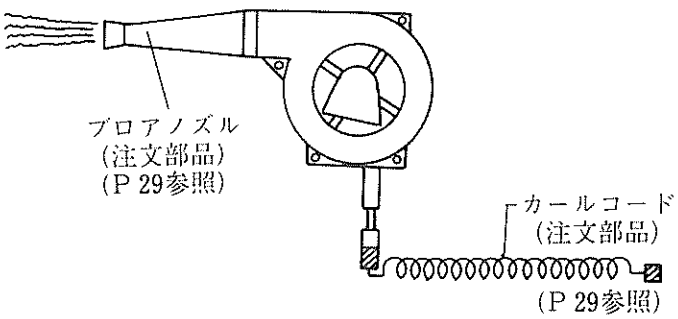
① ブロアを取り外してください。
② カールコードでブロアを接続してください。
③ チェンジレバーを「中立」位置にしエンジンを始動させ、中速で回転させてください。
④ サナエマチック感度調節レバーを「植付部下降ロック」位置にし、油圧・植付レバーを「入」、ブロアスイッチを「入」にするとブロアは回転します。

⚠ 注　意

①直流12Ｖ以外の電源では使用しないでください。

②送風口や吸込口をふさがないでください。

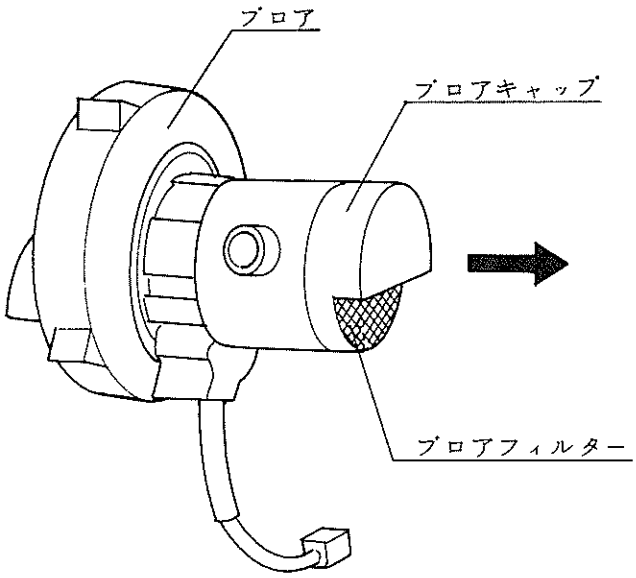
③ブロアは、ガソリン、シンナー、石油、灯油類を付着させると表面をいためることがありますので、清掃する時は、かわいた布か石けん水をつけた布などでふいてください。



### ブロアフィルターの水洗い

① P 27「水洗いのしかた」を参考にブロアを外して、ブロアキャップを矢印の方向へ引っ張ってブロアフィルターを取り出してください。

② ブロアフィルターを水洗いし、良く乾燥させてから取り付けてください。




## 格　納

肥料は機体を腐食させますので、思わぬ所がサビて機械の寿命を短くする恐れがあります。来春の使用に備えて格納するときは、ていねいに手入をしてください。

(1) 肥料タンク、施肥ロール内の肥料は完全に取り出してください。
施肥ブラシが変形している場合には、お湯で施肥ブラシを洗うと元に戻ります。

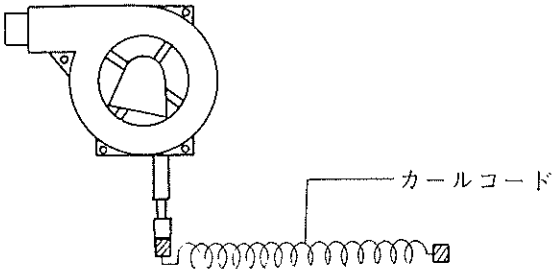
(2) 各部、特に施肥機の肥料タンク及び肥料の通路を水洗い後、各注油箇所に十分注油してください。

# 知っておきたいこと

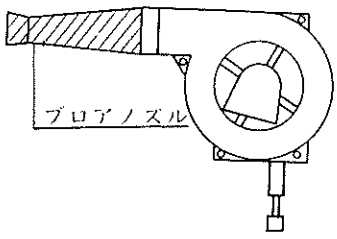
## 注文部品について

| 品　　名 | 部品コード | FTA 401 D 401 D－B | FTA 401 D －BA | FTA 501 D 501 D－B | FTA 501 D －BA | FTA 601 D 601 D－B | FTA 601 D －BA | 参照項目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カールコード | 2145-780-001-0 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| ブロアノズル | 2145-780-002-0 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 2 |
| タネモミテイリョウカップ | 2723-601-001-0A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 3 |

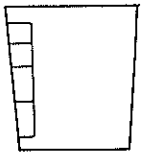
1. カールコード
施肥機清掃用延長コード注文品です。




2. ブロアノズル
施肥機清掃用ノズルの注文品

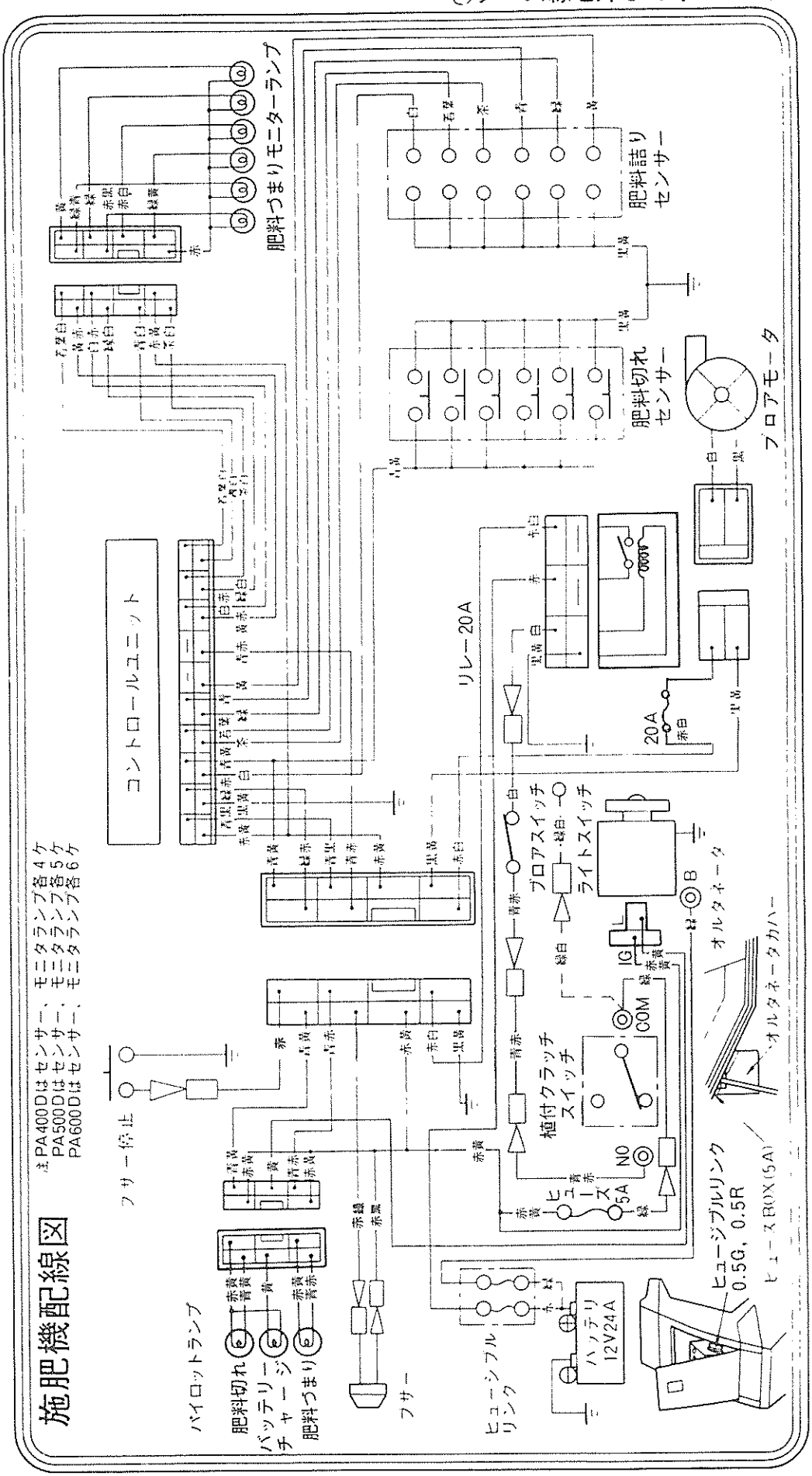



3. タネモミテイリョウ・カップ
肥料の比重を測るのに便利な注文品です。



## 施肥機配線図

⚠注意
電装関係を調節するときは、バッテリーの
㊀アース線を外してください。



井関農機株式会社

| | | | |
|---|---|---|---|
| 本社 | 〒799-26 | 松山市馬木町700 | ☎0899-78-1211 |
| 本社事務所 | 〒102 | 東京都千代田区紀尾井町3番6号（秀和紀尾井町パークビル） | ☎03-3238-5201 |
| 営業北海道支店 | 〒068 | 岩見沢市5条東12－5 | ☎0126-22-2666 |
| 営業東北支店 | 〒989-24 | 宮城県岩沼市下野郷新南長沼1－2 | ☎0223-24-1111 |
| 営業関東支店 | 〒300-23 | 茨城県筑波郡伊奈町大字青木560 | ☎02975-8-5131 |
| 営業関西支店 | 〒523 | 滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602 | ☎0748-37-3831 |
| 営業中四国支店 | 〒799-26 | 松山市馬木町700 | ☎0899-79-4111 |
| 営業九州支店 | 〒861-22 | 熊本県上益城郡益城町大字安永1400 | ☎096-286-5888 |


2145－971－005－0